

科目コード	40013	授業科目	看護大学ゼミナールⅢ (OPCN Seminar Ⅲ)			担当 教員	○宮城恵子 山本敬子 仲宗根洋子 佐久川政吉		
開講年次	3年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習		
選択必修	必 修	時間数	30時間						
履修条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	看護大学ゼミナールⅡに引き続き、現在の看護に関わる課題を見つけ看護方法を改善するために、看護用具の発明や改善、看護介入および看護システムに関わる改善・工夫など、学生自ら主体的に創造的にその課題を克服する能力を獲得できるように学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの講義・演習・実習の中から改善すべき保健看護上の課題を見つけることができる。 2. 保健看護上の問題を解決するために多様な手法を討議できる。 3. 建設的な態度で会議、討議に参加できる。 4. 自分及びチームメンバーそれぞれの強みと弱みを知って、協力できる。 5. あらゆる資源を活用して創造的に問題解決に取り組むことができる。 6. リーダーシップを発揮できる。 7. 問題解決過程の要点を記録でき、報告書を作成できる。 8. 効果的にプレゼンテーションできる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1・2回	オリエンテーション・会議の持ち方					ガイダンス時 に提示	宮 城 山 本 仲宗根 佐久川	演習	
第3～7回	グループワーク							演習	
第8回	中間報告							演習	
第9～13回	グループワーク							演習	
第14～15回	プレゼンテーション							演習	
テキスト	なし								
参考文献	取り組む課題によって、適宜紹介する。								
他科目との 関連	これまでの講義・演習・実習すべての科目、ならびに個人的経験等と関連する。								
成績評価 の方法	授業への参加（50%）、中間報告（10%）、プレゼンテーション（20%）、報告書（20%）								
学習相談・ 助言体制	オフィースアワー（教員と学生が気軽に話せる場所と機会）を設ける。								
授業改善の 特記事項	オフィースアワーで得られる学習ニーズは、メールや会議等を通して全学的な共有を図る。								
備 考	<p>学生の自主性を尊重する科目である。</p> <p>少人数でのグループワークを中心に行なう。</p> <p>学生は学習時間を確保できるように、アルバイトやサークル等の活動時間を調整する。</p>								

科目 コード	37131	授業 科目	島嶼保健看護 (Insularity Health and Nursing)			担当 教員	○川崎道子 大湾明美 神里みどり 仲宗根洋子 長堀智香子 牧内忍 系数仁美		
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義・演習		
選択必修	選 択	時間数	45時間						
履 修 条 件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	島嶼の人々を、地理・歴史・文化・経済・制度等が健康に与える影響を総合的に理解し、これまで学習した健康の概念の理解を深め、看護職者の果たす役割を考える。そして、島嶼の地域特性にあわせた特徴ある看護実践のための概念・理論およびスキルを学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 島嶼の地理・歴史・文化・経済・制度等にみられる特徴が健康や生活に及ぼす影響を総合的に理解することができる。 2. グローカルな視点を持ち、国内外・沖縄県内の島嶼の保健・医療・看護の現状と課題を理解できる。 3. 健康の概念の理解を深め、島嶼における看護職者の役割について考えることができる。 4. 島嶼の看護実践のために重要な概念と理論を概説できる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	グローカルな視点からみた「島嶼保健看護」「国際保健看護」 島嶼保健看護の魅力 海外（アジア・太平洋）の島嶼保健看護の現状と課題 国際保健看護の魅力 島嶼保健に必要な概念：プライマリ・ヘルスケア、協働連携 島嶼保健に必要な概念：セルフケア、慢性疾患ケアモデル 沖縄県の離島・へき地の保健医療体制 島嶼における健康危機管理（第1回～8回：中間試験）						川崎・長堀 大湾 神里 長堀 大湾 仲宗根	講義	
第9・10回	離島訪問のための事前学習（既存資料の収集、訪問計画など）						川崎 仲宗根	演習	
第11・12回	事前学習発表および課題の追加学習						他		
第13～22回	離島訪問（1泊2日：10コマ）①～③は分担可 ①関係者及び住民に島の地理、歴史、文化、経済、制度等についてフィールドワーク ②住民のセルフケアや受療行動など健康や生活についてフィールドワーク ③保健医療福祉行政の専門職に健康の現状と課題についてフィールドワーク ④訪問調査を踏まえ、島嶼における看護職者の役割について報告（グループ別） ⑤個人レポート（備考参照）								
第23回	報告会						全員		
テキスト	特に指定しない。資料を適宜配布する。								
参考文献	「離島関係資料」「沖縄県保健医療福祉行政の概要」「村勢要覧」等								

他科目との 関連	地域保健看護関連の科目を応用して、沖縄県離島、へき地における保健医療福祉の現状と健康課題を理解する。
成績評価の 方法	授業参加状況10%、中間試験50%、事前学習・離島訪問調査・報告会（態度10%、グループディスカッション20%、課題レポート10%）
学習相談・ 助言体制	授業での疑問や演習課題の相談は、担当教員が随時対応する。離島訪問については、グループ担当教員と相談しながらすすめる。
授業改善の 特記事項	グループワークを取り入れ積極的な授業参加を促す。 島嶼保健看護に必要な概念を離島訪問を通して理解を深める。
備 考	指定された日時までに下記を提出する。 1) 学習記録（本授業での学習記録を自分なりにファイルしておくこと；見出し（インデックス）をつけること；新聞の切り抜き、写真など何でも参考資料とする 2) 各グループ報告会資料 3) 個人レポート 4) 自己評価票

科目 コード	38111	授業 科目	国際保健看護 (International Health Nursing)			担当 教員	○長堀智香子 大湾明美 神里みどり ほか	
開講年次	4年次	前期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	講義・演習
選択必修	選	択	時間数	45時間				
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	グローバルな視野から諸外国の地理的環境、歴史、文化、経済、医療政策、健康状態の動向および対策、保健看護事情と人々の生活を理解し、日本国内に在住する外国人の背景と現状を理解する。それらを踏まえて健康に影響を与える要因および保健医療福祉が果たす役割について考察できる。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護においてグローバルな視点をもつことの重要性が理解できる。 2. 健康に関連する国際的援助機関の役割と活動の実際を理解できる。 3. 世界の各地域（島嶼を含む）における保健医療看護の現状と課題を理解できる。 4. 看護における異文化コミュニケーションの重要性を理解できる。 5. 国内に在住する外国人の背景と健康課題を理解し、看護職の役割を考えることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業 形態
第1回	ガイダンス、グローバルな視点から見た島嶼保健看護と国際保健看護					講義中に課題を提示する	川崎・長堀	講義
第2回	島嶼保健看護の魅力							
第3回	海外（アジア・太平洋）の島嶼保健看護の現状と課題					大湾 神里 長堀	演習	
第4回	国際保健看護の魅力							
第5回	健康に関連する国際的援助機関の役割と活動の実際							
第6回	世界の各地域における保健医療看護の現状と課題							
第7回	途上国における国際保健看護の実際・ハワイ研修報告							
第8回	在日外国人と海外在留邦人への看護活動（中間テスト）							
第9・10回	学内演習（特定の国の概要と健康課題を抽出する）							
第11・12回	グループ発表、学外演習計画立案							
第13～19回	学外演習（沖縄県内に在住する外国人へのインタビュー）							
第20・21回	学外演習のまとめ							
第22・23回	報告会							
テキスト	特に指定しない。資料を適宜配布する。							
参考文献	ビバリー・ヘンリー著 国際保健看護 看護の科学社、2005年 田村やよひ編 国際看護学 メヂカルフレンド社 2012年 山崎明美・當山紀子編 やさしく学べる国際保健・看護の基礎と実践 桐書房 2012年							
他科目との 関連	経済学、社会学、保健医療情報、環境保健学、公衆衛生学、疫学の知識を活用して、世界の健康状況を理解する。							
成績評価 の方法	授業参加状況 10点、授業・演習態度 10点、最終報告資料・個人レポート 30点、中間テスト 50点							
学習相談・ 助言体制	出席票に理解できない箇所や疑問点の記載を求め、対応する。							
授業改善の 特記事項	授業にはグループワークを取り入れ積極的な授業参加を促す。							
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・海外研修セミナー（ハワイ研修）への参加および課題レポート提出により2単位中1単位（第9回～23回分の読み替え）の認定を行う。 ・上記学生の場合は、到達目標5の「国内に在住する外国人」を「ハワイに在住する人々」とする。 							

科目 コード	40020	授業 科目	卒業演習 (Evaluation Seminar)			担当 教員	○大湾 明美 助教以上全教員	
開講年次	4年次 後期	単位数	1単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	必 修	時間数	30時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	<p>本学が定めた卒業時の到達目標に照らして、自らを客観的に振り返り、自分の到達度を評価し、評価結果を総合的に分析する。不足する知識・技術・態度を主体的に学習し、補充すると共に、能動的学習能力を獲得できるように学習する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業時に修得すべき知識と技能を示すことができる。 2. 自分に不足している知識や技能を見つけ、再学習の方法を提示できる。 3. 再学習の計画を立て、実行できる。 4. 自分を客観的に振り返ることができる。 5. 自己調整的学習（能動的学習）上の課題を見つけることができる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～3回	第1回看護統合試験、自己評価、解説				新学期ガイ ダンスで、日程 と共に提示す る。	大 湾 助教以上 全教員	演 習	
第4～7回	看護技術試験、自己評価							
第8～11回	第2回看護統合試験、自己評価、解説							
第12～15回	第3回看護統合試験、自己評価、解説							
テキスト	なし							
参考文献	適宜紹介する。							
他科目との 関連	これまで履修したすべての科目							
成績評価 の方法	毎回の参加度、試験成績を総合的に判断して評価する							
学習相談・ 助言体制	オリエンテーション時にオフィスアワーを提示する							
授業改善の 特記事項	開講年度に提示							
備 考	授業開始前までに自分に不足している知識と技能を見つけて、達成できるように準備しておくこと。							

科目 コード	31126	授業 科目	看護専門職論Ⅱ (Professional Nursing Ⅱ)			担当 教員	○宮城恵子 宮里智子		
開講年次	4年次 前期	単位数	2単位	科目	専門関連科目	授業 形態	講 義		
選択必修	必 修	時間数	30時間	分類					
履修 条件	前提科目	なし							
	その他	なし							
授業概要	これまで学習した知識を統合し、専門職業上の問題を探求する。また、社会のニーズに照らして専門職業として看護を捉え、専門職業としての看護の発展に影響する最近の動向について理解を求める。さらに、学生から実務者役割への移行期の課題、ならびに看護専門職の法的、社会的側面にも焦点を当てる。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動を支える社会のしくみ、および、保健医療福祉組織における看護の機能と役割について理解できる。 2. 看護の質評価について理解し、看護ケアの改善における課題について看護管理の視点から考察できる。 3. チーム医療における看護専門職及び他職種の役割を理解し、保健医療福祉サービスの継続性を保障するためのチーム間の協働と連携について説明できる。 4. 医療安全のための医療機関の取り組みと看護の活動・役割について理解し、安全なケアのためにチームとして取り組む意義について説明できる。 5. 看護職のキャリア開発、看護専門職としてのリーダーシップについて理解できる。 								
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1回	保健看護管理に必要な知識と技術					第5章	宮 城	講義	
第2回	看護とマネジメント 看護ケアのマネジメント					第1章 第2章	宮 城	講義	
第3回	看護における医療安全					配布資料 第3回終了時にレポート ①を提出 到達目標4	〃 ゲスト スピーカー	講義	
第4回	看護サービスマネジメント①						第3章 第3章	宮 城	講義
第5回	看護サービスマネジメント②					第4章 第6回終了時にレポート ②を提出、到達目標2 資料配付 第8回終了後にレポート ③到達目標1.3	宮 城	講義	
第6回	看護の質保証・看護の費用対効果 看護を取り巻く諸制度						第4章	宮 城	講義
第7回	保健医療福祉活動における看護の役割と関連職種との協働・連携					資料配付 第8回終了後にレポート ③到達目標1.3	大 湾	講義	
第8回	地域包括ケアシステム						〃	大 湾	講義

第9回	自己の看護観の形成過程を振り返る①	資料配付	宮 城	講義 グループ ワーク
第10回	自己の看護観の形成過程を振り返る②	資料配付	宮 城	
第11回	看護継続教育； 新人看護師研修の努力義務化・クリニカルラダー	第3章	宮 里	講義
第12回	看護職のキャリア開発；看護職の専門分化 (専門看護師/認定看護師など)，リーダーシップ	第3章 第12回終了 時にレポー ト④到達目 標5		
第13回	日本の保健医療システムの現状と課題 (学生の発表)	課題に取り 組み発表で きるように まとめる (事前)	宮 里	
第14回	臨地実習での具体的な体験をもとに、看護専門職に求められて いる看護とは何か (学生の発表)		宮 里	
第15回	臨地実習での具体的な体験をもとに、ケアの改善における課題 を考察し発表する (学生の発表)		宮 里	
テキスト	「系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①」：医学書院 2013			
参考文献	適宜紹介する。			
他科目との 関連	看護専門職論 I			
成績評価 の方法	授業参加状況 (10%)、授業への参加状況 (10%)、ミニテスト (15%)、プレゼンテーション (20%)、 レポート (20%)、最終試験 (レポート) (25%)			
学習相談・ 助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業終了後に、授業を通して理解が深まった点、疑問点や授業に対する感想や要望な どの内容の授業評価の提出を求め、次回授業に説明補充を行うことで理解をはかる。 ・オフィスアワーをもうけ、学生からの質問を受ける体制をとる。オフィスアワーは、 第1回目の授業で提示する。 			
授業改善の 特記事項	毎回の授業終了後に授業評価の提出を求め、その内容を考慮して次回の授業展開を考える。			
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回ミニテストを行うので、事前学習を行って参加する。 ・テキストの該当ページを読んで授業に参加する。 			

科目 コード	40142	授業 科目	看護統合実習 (Integrated Nursing Practicum)			担当 教員	○大湾 明美 看護系教員 (助教以上)	
開講年次	4年次 後期	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	実 習	
選択必修	必 修	時間数	90時間					
履修 条件	前提科目	看護専門職論Ⅱ 専門全領域の保健看護実習						
	その他	麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎の各抗体検査で陰性の者または予防接種が完了していない者は、実習を履修することはできない。さらに11月以降の実習においてはインフルエンザの予防接種を受けることも条件として追加される。						
授業概要	看護専門職論Ⅱ及びこれまで学習した看護の概念と臨床的推論コンピテンシーを統合、拡大、磨くための機会を提供する。施設または地域の場での集中的かつ自立的な臨地実践経験を通して、特定のクライアントおよび集団へのヘルスケアニーズに焦点を当て、先行研究の成果を活用した看護実践を行い、根拠に基づいた看護実践(EBN)について学習する。							
到達目標	<p>下記の実習目標に沿って定められた実習到達目標を別途提示する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護専門職者としての倫理観と責任感を養う。 2. 看護の対象のおかれた状況を分析・統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。 3. 看護を必要とする人々と適切な関係を築き、対象のニーズに基づいた看護を実践できる能力を養う。 4. 看護専門職者としての保健医療福祉等の関連職種間の連携・調整に必要な協働能力を養う。 5. 実践の中で自己の課題に気づき、解決に向けて主体的な学習態度を養う。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画						指導教員	
第1-40回	<p>(新学期ガイダンスにて) 概要の説明</p> <p>臨地実習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習配置の決定方法 1) 取り組みたい課題および実習したい専門領域・実習施設について学生の希望を調査する。 2) 学生の希望した複数の実習場を考慮して、各学生、各教員ともに不公平がないように、教務委員会で配置領域を決定する。 ・実習の進め方 1) 学事歴に決められた期間に90時間の実習を行う。 2) 4月中に実習先、担当教員を決定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・希望調査を行い、希望調査にもとづき、配置領域を決定する。 ・各専領域で学生毎の担当教員と実習施設を決定する。 3) 7月中に、学生は担当教員と相談の上、実習計画を立てる。所定の様式にそって実習計画書を作成し、領域単位でUSBに記録し学務課に提出する。 4) 担当教員は、実習計画書の提出に間に合うよう、学生の計画に基づいて、学生とともに実習施設と調整し、実習施設(病棟)、時期を決定する。教員は実習施設に配慮しつつ、準備の段階から学生の自主的行動を促すように関わる。 5) 学生は計画に従って担当教員および施設側の実習指導者と連携しながら、自立して実習を行う。 6) 毎日の実習目標、計画、実施、評価を記載した毎日の実習記録と全体サマリーを作成する。 7) シラバスの到達目標に照らしてレポートを作成する。 						大 湾 看護系教員 (助教以上)	
第41-45回	カンファレンス							
テキスト	ガイダンス時に提示予定							
参考文献	ガイダンス時に提示予定							

他科目との 関連	看護卒業論文、看護総合演習の前提となる科目である。これらの科目で要求される論文や報告書のテーマとなる課題を特定すること。
成績評価の 方法	参加状況および実習態度、学生の計画性、実習目標の到達度、レポート等(毎日の実習記録と全体サマリーを含む)の提出物、実習施設の指導責任者の情報等を参考に、担当教員が総合的に評価する。
学習相談・ 助言体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。
授業改善の 特記事項	開講年度に提示
備 考	看護系教員が少人数の学生を担当する。原則として、看護卒業論文または看護総合演習と同じ教員が担当する。

科目コード	40131	授業科目	看護卒業論文 (Nursing Research and Evidence-Based Practices)			担当 教員	○大湾 明美 助教以上の教員		
開講年次	4年次	通年	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演習	
選択必修	選	択	時間数	60時間					
履修条件	前提科目	看護統合実習を履修できること。3年次必修科目成績がD 2科目以内であること。							
	その他	なし							
授業概要	統合実習において試みた根拠に基づいた看護(EBN)の過程を科学的に考察し、報告書にまとめることにより、看護の意図的な取組の論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方、ならびに論文の書き方について学習する。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合実習での看護実践記録を正確に整理できる。 2. 実施した看護実践を科学的に考察し、論文を作成できる。 3. 上述した看護実践を要約し、事例検討会資料を作ることができる。 4. 事例検討会で発表できる。 5. 事例検討会に建設的に貢献できる。 6. 看護専門職者として必要な問題解決力(正しい課題認識・代替案の考案・相互に受け入れ可能な解決策の選択など)の基礎を習得できる。 								
授業回数	授業内容及び計画					事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～15回	<p>(新学期ガイダンスにて) 概要の説明</p> <p><u>統合実習前 (前期)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習の中から看護実践上の課題を探る 2. 研究成果の活用方法を学ぶ 論文の探し方 論文の読み方 科学論文の書き方 EBPについて 学習成果発表に向けて 取り組んだ課題と考察について発表 3. 統合実習の準備 自己の課題を明確にする。 課題に関連した文献を探し、読み取る。 実習計画書を作成する。 					<p>新学期ガイダンス時に、日程と共に提示する。</p>	<p>大湾 助教以上の教員</p>	<p>講義 および 演習</p>	
第16～30回	<p><u>統合実習終了後 (後期)</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での看護実践を記述する。 2. 看護実践について考察する。 3. 論文にまとめ、事例検討会で報告・討議する。 4. 討議の結果を含めて、論文を完成する。 事例検討会の持ち方は別途決める。 5. 事例検討会 (学習成果発表会) 								
テキスト	<p>澤田昭夫「論文のレトリック」講談社学術文庫 604</p> <p>澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 153</p> <p>高橋誠「会議の進め方」第2版、日経文庫、2008</p>								
参考文献	八幡ひろし「会議の技術」PHP 文庫、2009								
他科目との関連	看護統合実習								

成績評価の方法	授業への参加、論文・資料等の成果物、事例検討会への参加等を総合的に判断する。
学習相談・助言体制	各担当教員が授業開始前にオフィスアワーを提示する。
授業改善の特記事項	開講年度に提示
備考	看護系教員が少人数の学生を担当する。原則として、看護統合実習と同じ教員が担当する。

科目 コード	40030	授業 科目	看護総合演習 (Comprehensive Nursing Seminar)			担当 教員	○大湾 明美 助教以上の教員	
開講年次	4年次 通年	単位数	2単位	科目 分類	専門関連科目	授業 形態	演 習	
選択必修	選 択	時間数	60時間					
履修 条件	前提科目	なし						
	その他	なし						
授業概要	統合実習において試みた看護実践について、科学的に振り返り、特に関心の深いテーマやさらに深める必要のあるテーマを見つけ、自己にふさわしい学習方法により、それらに関する知識や技術をさらに深め、その成果を報告書にまとめ、看護の意図的な取組の論理性、実践の正確な記述、結果の適切な分析や評価のあり方、ならびに論文の書き方について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習過程の中から自己の課題を客観的に分析できる。 2. 実施した看護実践に必要な知識や技術を列挙でき、説明できる。 3. 自己にふさわしい学習方法を説明でき、実施できる。 4. 統合実習で見つけた関心あるテーマについて知識や技術を深め、報告書を作成できる。 5. 報告書を要約し、会議資料を作ることができる。 6. 会議で発表できる。 7. 建設的会議に貢献できる。 							
授業回数	授 業 内 容 及 び 計 画				事前・事後学習 (学習課題)	担当者名	授業形態	
第1～15回	(新学期ガイダンスにて) 概要の説明 <u>統合実習前 (前期)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの学習の中から自己の課題を見出し、その分析と取り組み方法を検討する 2. 研究成果の活用方法を学ぶ 論文の探し方 論文の読み方 科学論文の書き方 EBPについて 学習成果発表に向けて 取り組んだ課題と考察について発表 3. 課題に取り組む 4. 統合実習の準備 自己の課題を明確にする。 課題に関連した文献を探し、読み取る。 実習計画書を作成する。 				新学期ガイダンス時に日程と共に提示する。	大 湾 助教以上 の教員	講義 および 演習	
第16～30回	<u>統合実習終了後 (後期)</u> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習での看護実践を記述する。 2. 看護実践について考察する。 3. 報告書にまとめ、事例検討会で報告・討議する。 4. 討議の結果を含めて、論文を完成する。 事例検討会の持ち方は別途決める。 5. 事例検討会 (学習成果発表会) 							
テキスト	澤田昭夫「論文のレトリック」講談社学術文庫 604、2002 高橋誠「会議の進め方」第2版、日経文庫、2008							
参考文献	澤田昭夫「論文の書き方」講談社学術文庫 153 八幡ひろし「会議の技術」PHP 文庫、2009							